

前年度の成果と課題		教育目標	ともに学びあい、心豊かにたくましく生きる子どもの育成 ～互いに認め合い・つながりあう～		総合評価	
<p>挨拶についての意識の高まりは感じるものの、学年(クラス)によって温度差を感じる。児童が主体的に捉え挨拶ができている活動になるには、越えていかなければならない課題を要する。</p> <p>学習面では、各教科で考えや思いを伝え合う活動の充実を目指し、指導を行うことで、主体的な活動は徐々に進めるようになってきている。ただ、系統性が曖昧なため、学年内での高まりはあるが、学年を縦に見たとき、積み重ねができていないように思う。次年度は系統的で継続的な取組を行うことを考える必要がある。</p> <p>学校運営協議会、五位堂幼小コミュニティ協議会に対し、学校が必要とするボラティアなどを積極的に発信し協力を求め活動の活性化に繋いでいく。</p>		運営方針	児童・教職員・保護者・地域の相互のつながりを大切にしながら、社会の変化に対応できる資質や人間性・創造性豊かな「生きる力」を育む		B	
		本年度の重点目標	(1) 児童一人一人に基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、自分のよさを発揮し、意欲的に学ぶ児童を育成する。			
			(2) 人権尊重の精神に徹し、差別に対する正しい見方・考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を養うと共に、豊かな心を育て、自他共により良く生きる道徳的实践意欲と態度を培う。			
			(3) 「あいさつ運動」や「聴く話す活動・書くことの指導」等を通してコミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係の構築に努める。			
			(4) 体育的活動の充実や運動遊びの奨励を図るとともに、安全教育・食育の充実を図る。			
(5) 学校・地域パートナーシップ事業の推進と学校サポート体制の構築を図る。						
学校経営	評価の観点		評価	成果と課題(評価の分析)	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
教育目標経営方針	教育目標が教職員、保護者に理解されている。	B	B	保護者及び地域の方々に学校の方向性がしっかりと理解していただくため、グランドデザイン等を毎年見直し、啓発を行う必要があると考える。	<p>自分の考えや思いを伝えあえる子どもの育成し、良さを見つけ合い自尊感情を培う取組として本年度も「書くこと」に力を入れた取組を行った。全体的には比較的に子どもたちは落ち着いて日々の学校生活での活動もスムーズに進んでいる。しかし、個々に目を向けると、なかなか自分の良さを見つけられなかったり、自分の思いを素直に伝えられなかったりして困り感を持った児童も見られる。来年度以降も引き続き朝の業前活動で「書くこと」の指導は行うことにしている。</p> <p>様々な行事も再開し、縦割り活動を意識した異学年交流も再開した。学年をこえての活動ができるようになったことで、本校の特色である「子どもたちの仲の良さ」がはつきされるようになった。来年度は高学年を中心としながら特別活動等の活性化を図り、より一層特色を活かした教育活動を創造していきたいと考える。</p>	<p>・地域の方々とふれ合い、一緒に学習できる「五いつつサポーター」はとても良いシステムでこれからも是非続けていきたいと感じました。</p> <p>・今回は150周年事業を行うにあたり、忙しい中にも関わらずご協力をいただき厚く感謝しております。地元として学校運営協議会の一員として、学校からの要望、協力要請等には最大限の協力をしたいと考えています。さらに周年記念に帯する協力を地域に求めたところ、想像以上の協力があり、やはり地元として学校に対する思い入れと愛着があることを改めて感じました。是非学校の職員の方々に地域への熱意を共有していただき、更なる五位堂小学校の発展と評価アップに繋がることを期待しています。</p> <p>・学校のためにPTAや地域が子どもたちを支え育ちを見守るというこの地域の形が今後もよりよく引き継がれていくことが大事だと思います。</p> <p>・コミュニティ協議会ではこれまでの具体的な活動を元に、各分会で話しかえた時間は有意義な時間でした。サポートする側も無理ではなく、やれるとき、やれる人が参加できるスタイルもとても良い提案だと思いました。</p>
	教育目標が生かされた特色ある教育課程が編成されている。	B		学習指導要領に基づいた教育課程の中に、特色ある教育目標を立て、生かしていくことが必要である。		
	年間授業時数の確保と週時程の運営ができています。	A		毎月の授業時数の集計の報告を元に授業時数の確保が成され、行事とのバランスも考えながら運営ができた。今後も学習内容が行事に活かせるよう更なる改善を行う。		
	自ら学び、自ら考える力を育て、主体的・創造的な学習態度が養われている。	B		今後子ども主体性・自主性を伸ばすため、必要に応じて体験活動等を取り入れていく。		
	教育活動全体にわたって評価を行い、教育力の向上に努めている。	B		自己評価・学校関係者評価、保護者・児童アンケートをもとに、改善を行い、向上に努めている。		
組織運営校務分掌	職員会議や研修で決定された内容が、学校運営や各学年・学級の教育活動に十分に反映されている。	B	B	共通理解を常にに行い、教育活動の中で共通実践されている。	<p>現在の学校運営の中で一番喫緊の課題といえるのが業務や行事等の精選であるが、その前に一部の職員に業務が集中してしまうこと課題であると感じる。教職員それぞれが組織の一員であるということに自覚し、進んで行かなければならないと思う。そこで管理職も含め個々の職員が「手伝って欲しい」と言える職員相互の「風通しのよい」職員環境作りがまず必要であると感じた。校務分掌上の役割を意識し、教職員の意識と協力が重要であり、これらが健全に機能できるようにしていきたい。</p> <p>また会議の内容も要点を絞り、時間短縮に向けての工夫も必要である。本来教員が行うべき業務の時間の確保し、教職員一人一人がモチベーションを保ちつつ、業務が行えるように、校務分掌等においても、それぞれが力を発揮できるようにしていく。</p>	
	児童の実態に応じてケース会議(教育相談、生徒指導、特別支援)を開き、支援の方向を全教職員で共通理解し、連携して進めている。	A		必要に応じてケース会議を開き対応しているが、対応を考えなければならない児童が増えている。ケース会議をもつ時間にも限りがあるので、事前の判断を的確に行っていきたい。		
	各学年・学級間相互の連絡が円滑であるとともに、互いの特色や独自性も尊重した学校運営が行われている。	B		各学年での学級間や、低・中・高学年部会での話し合いを定期的にもち、相互の話し合いを生かしている。		
	校務が適切に分掌され、職員の意欲を引き出した学校運営が行われている。	B		適材適所の配置を行っているが、負担が均一になっていない課題がある。		
	校内の各委員会や部会等が、計画的に開かれ、有機的に機能している。	A		各委員会や部会は年間計画に沿って定期的実施している。職員会議などで共通理解されている。		
予算の編成・執行の方法や手続きなどが適正かつ効率的に行われている。	B	学校予算会計は教頭と事務職員で、学年会計は学年担当者が適切に処理している。				
地域連携	地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に生かしている。	B	B	五位堂幼小コミュニティ協議会で「五位堂っこサポーター」を立ち上げ、具体的に取組を進めることができた。少しずつ保護者、地域が課題を共有できるようになってきた。	<p>コロナ禍の中の反省として、情報提供の必要性を感じている。保護者の信頼、良好な関係作りのため、今後も積極的な情報提供に努めたい。</p> <p>地域と学校が課題を共有していくためにも、幼小コミュニティ協議会の活動に「改善」を加えながら更に充実した取組を進めたい。</p>	
	家庭への様々な啓発活動(学校便り、学年・学級通信、保健・給食だより、家庭訪問、電話等)を通して、学校や学年・学級の取組等が保護者に伝わっている。	B		「五小だより」の発行や各学年からのたより等を通して保護者に伝えることができた。今後も保護者の理解や協力が得られるよう啓発していく。		

令和5年度 学校評価総括（計画）表【Ⅱ】

香芝市立五位堂小学校

教育活動	評価の観点	評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
学習指導	各教科の年間指導計画、評価規準が作成され、それに沿った授業作りが展開されている。	B	年間指導計画・評価規準は用意しているが、子どもに見通しの持てる授業の展開に改善が必要。	「書くこと」を研修のテーマにして研修が三年目を迎えた。全学年とも「書くこと」に対する抵抗感はなくなくなったが、目標が漠然としていて効果的に取組めたかどうかの検証が曖昧になってしまったように感じる。「かくかくタイム」は今後も「書く力」の育成のため続け行くとして、はっきりとした（取組みやすい）目標設定を行い、考察・検証がしっかりとできるようにする。その上で、「伝え合う力」が身に付けられるよう取組んでいきたい。	
	基礎基本を明確にし、教材の精選や指導方法の工夫をし、定着に向けた継続した取組を行っている。	B	常に学年間で話し合い、教材や指導方法について話し合い工夫を重ねることができた。		
	児童一人一人の個性や能力に応じた学習指導が、展開されている。	B	児童一人一人の個に合わせた丁寧な指導を行っているが課題を持つ児童が増えてきているため、時間の確保をどうするか工夫が課題である。		
	児童が進んで読書をするような取組を行っている。	B	読書意欲を持たせるため「本紹介カード・読書貯金」を行った。来年も見直しを加えながら取組んでいく。		
	総合的な学習の時間をはじめ、児童・地域の実態を踏まえ、創意工夫した活動が展開されている。	A	コロナ禍での制限も緩和され、対外的な活動やゲストティチャーにも来ていただき、児童の意欲の向上を目指す取組ができた。今後も創意工夫していく。		
	思いや考えを伝え合い、認め合える集団を育てるための指導方法の工夫をしている。	B	お互いの思いや考えを伝え合い、認め合える集団作りは今後も継続して取組み、学習指導につなげていくことにした。		
生徒指導	生徒指導に対する職員間の共通理解が図られ、全体体制による実践が展開されている。	A	年度初めの生徒指導年間指導計画を共通理解して、児童の実態に合わせて学年に応じた指導を行っている。今後も続ける。	挨拶については「自らできる、できない」がはっきりと分かれているように感じる。できない原因を明らかにし、手立てを考える必要がある。立場や状況を自覚し、当たり前前に挨拶のできる児童を育てていくために今後もしっかりと取組んでいきたい。「わたしたちのくらし」でここ数年服装についての見直しを図ってきた。その中で「ジェンダーフリーの観点からの見直しの声」が保護者からも上がっている。今直ぐには変更は難しいかも知れないが、今後数年かけてジェンダーフリーを取り入れた服装（標準服等）を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、先生方が一番に子どもたちのことを考えてくださり、子どもたちのための学校生活を考えてくださった1年だったと思います。</li> <li>・コロナ禍の緩和で子どもたちの元気な声が聞こえてくる事が多くなって喜ばしい限りです。学校としても先生方が一丸となり子どもたちのために頑張っている姿は、我々も外部から見てもよく認識できています。</li> </ul>
	進んで挨拶をする指導の充実が図られている。	B	「進んで挨拶ができる学校」が伝統となるよう、目的意識を持たせて取組んでいく。		
	交通安全教室や避難訓練、防犯教室等を実施し、安全に対する児童の意識の向上を図るとともに、緊急時に対応する実践力が培われている。	B	定期的に行事として計画して実施して、反省・評価を行い課題を見つけ、次につなげている。		
	不審者対応及び危機管理マニュアル等を作成し、職員間の共通理解のもとに、緊急時の対応に備えられている。	A	危機管理マニュアルを作成し共通理解をしている。シミュレーションを通して緊急時に備えている。		
	保護者や地域、関係機関との連携が図られている。	B	災害時引き渡し訓練を隔年で実施し、その反省を踏まえ保護者への啓発と理解、緊急時の連携に努めている。来年度「引渡訓練」実施予定。		
特別活動	児童の主眼的で意欲的な学級活動や集会活動が展開できている。	B	コロナ禍制限も緩和され、学級活動及び集会活動を従来通り展開した。更なる工夫を加え取組んでいく。時間の確保に課題がある。	コロナ禍での感染対策も緩和され、児童が集える集会活動なども再開できるようになった。ただ、活動に行うことに重点を置くのではなく、計画段階で児童が主体的に活動の展開が行われることに留意して進めて行くことを大切にしたい。また、学級活動でも、話し合いを中心とした児童個々の考えや思いが反映される学級活動の充実を図っていく必要がある。子どもたちの自主性・主体性を育むような活動の在り方を児童、教職員ともに今後も考えていきたい。	
	児童が意欲的に学校運営にかかわり、学校生活の充実と向上のための児童会活動が展開されている。	B	計画委員会を中心に各委員会が意欲的に活動しているが、時間的な制約を加味した主体性を育む活動形態を課題として取組む必要がある。		
	児童自らが楽しみ、異学年と共通の興味関心を高め合う主体性あるクラブ活動が展開できている。	B	児童の希望のクラブをできるだけ割り当て、興味関心を高めた活動を行っている。		
	児童が楽しいと感じ、精選された内容で以下の各種学校行事が行われている。	A	運動発表会や校外学習において、児童の充実感や達成感を味わわせる行事を行っている。		
人権教育	校内推進計画、年間指導計画をたて、重点課題を中心に系統的な指導が展開されている。	B	校内推進計画や学年の重点教材をもとに、学年で指導法を話し合い指導にあたっている。	校内推進計画及び重点教材を中心に各学年とも実態に即した形で計画的に取り組んでいる。今後も児童の人権意識が高まりや友だちを大切にしながらつながり合うなかまづくりができているかをしっかりと検証し実態把握に努めた上で、次年度へつなげていくことを職員間で確認している。4年生では、目の不自由な方、耳の不自由な方に来ていただき、障害をもつ方とつながることができた。5年生は助産師の方、6年生はLGBTの方を招き話を聞くことができ、教科書では学べない学習をすることができた。今後も続けていきたいと取組であると考えている。	
	いじめや日頃のトラブル、子どもの悩みなどについて、丁寧に内容をつかみ、共有化しながら対応できている。	A	日頃のトラブルに丁寧に対応するとともに、いじめの新指針を踏まえ、年2回のいじめアンケートを行い、それを元にいじめ検討委員会で話し合い、その結果を学年、学校全体で共有化して対応している。		
	自尊感情と相手を思いやる心を育む取組を行っている。	B	良いところ見つけなど、互いを大切にできるような日々の生活の中で自分たちの言動を振り返らせる取組を打つことができた。ただ、子どもたちの自尊感情が高まりを感じるころまでは至っていない。		
	校内授業研修、各研究会、研修会等を通して、教職員が人権感覚を高めるよう努めている。	B	校内での人権授業研修の時間を設定したり、市の人権教育研究会で実践報告を行ったりしている。		
	各学級の実践や児童の様子等を話し合い、共通理解が図られている。	A	年に3回（急を要する場合は臨時的開催あり）、配慮を必要とする児童について話し合いをもち、共通理解をして取り組んでいる。		

特別支援教育	特別な支援を必要とする児童の実態把握に努め、教育支援計画や個別の指導計画等を作成して支援・指導に当たっている。	A	B	「すまいるノート」の作成とともに、日頃から保護者と共通理解を図りながら計画的に支援・指導を進めてきた。	昨年引き続き月1回のサポート委員会、必要に応じての臨時校内委員会を開催し、きめ細やかに支援を要する児童の実態把握と適切な支援の方向性を検討することができた。外部機関への接続も迅速に対応できている。今後も支援を要する児童の実態把握は全職員で共通認識し、丁寧に継続的な取り組みを進めていく。
	一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援を行っている。	B		研修会や専門家に指導を仰ぎ、そこで学んだことをもとに、個々のニーズに合った支援法や教材教具の工夫に努めている。今後も、より分かりやすい学びにつながるよう、研修、研究の充実を図っていく。	
	実態交流や校内サポート委員会、ケース会議を行い、職員の共通理解のもとに適切な児童支援・指導を行うよう努めている。	A		外部機関と密に連携を行い、適切なアドバイスを受けて、職員間で情報を共有しながら、指導・支援を進めることができた。	
	学級での仲間作りを土台とし、支援を必要とする児童への正しい理解を深める指導に努めている。	B		交流会・通信の発行・全校への発表の場の設定など、特別支援学級から発信を行っている。学校内で温かいつながりが自然に生まれている。今後もそれをより広める指導を行う。	
健康安全教育	日々の健康観察を通して、児童の様子が把握できている。	A	B	毎朝、学級での健康観察を行い、学校全体で集約し、児童の様子を把握することができた。	感染症予防の観点からも、健康観察や保健指導を充実させ取り組む。また性教育についても一層の充実を求め継続して取り組んでいく。  食育における「早寝、早起き、朝ご飯、スッキリうんち」の取組は朝ご飯の摂取児童の割合の上昇につながっている。給食指導や栄養指導も継続的に実施しているが、残食については、学年・学級児童の実態により差が見られるものの、徐々に残食を減らせてきている。  PTAや地域コミュニティとも連携した体力作りが今年もできなかった。昨年から取組んでいるが、体育部で外遊びの紹介や工夫した運動を考え児童の外遊びを充実させる取組を行うことができた。今後も改善や工夫を加え取組んでいく。  ケガの数が減ったことでダイナミックストレッチング体操の有効性が昨年検証されたことから、本年度はより高度なもの、また指導が行き届くことを目指して講師に来ていただき講義を受ける研修を行った。今後も体育の時間で取り入れた継続した取組を行っていく。
	学年の発達段階や児童の実態に応じた保健指導が行われている。	A		各学年に応じた保健指導を学年担任と養護教諭で相談しながら計画し、適切に実施できた。	
	各学年の年間指導計画に基づいた性教育が、年間を通して実践されている。	B		年間計画に基づいた性教育を行い、年度末には総括冊子を作成することができた。	
	学年の発達段階や児童の実態に応じた給食指導が行われている。	B		栄養についての指導や残食をなくすための指導など給食主任と担任、そして児童の委員会活動でも食育をとりあげ、啓発も行うことができた。	
	衛生に気をつけて給食時間が過ぎるように努めている。	A		年度初めに給食指導について共通理解をし、給食におけるマナーや残食を減らす指導を行うことができた。	
	体育の授業では、全員の運動量の確保ができている。	B		体育部を中心に、運動量の確保を目指し工夫して体育の授業を計画することができた。児童の興味関心は高まってきているが、更なる工夫をしていく。	
	体育の授業以外で、体力向上に向けて取組が行われている。	A		外遊びを推奨し、遊びを通した体力の向上を呼びかけることができた。今後も工夫や改善を加え取組んでいく。	
研修・研究	校内研修の内容や計画が職員間で十分に共通理解され、授業実践を通じた研修が行われている。	B	B	学校目標のもとに、職員全体で共通理解して取り組んでいる。本年度は市指定研究を受け、実践を市内の学校に紹介することができた。	校務支援用のPCを活用し個人個人が受けた研修内容の共有や事務連絡など行えるようになり、少しではあるが時間の短縮が伺える。今後とも就業時間の短縮及び業務内容を充実したものにできるよう、活用の検討をしていく。
	校外研修によって得られた内容や気づきが、日々の授業実践等に生かされている。	B		校外での研修で得たものを、同僚職員と共有できる場(時間)が少ないように思う。日々の実践に活かすためにも研修計画を立てるときにその時間を入れていく。	
教材・教具 環境整備	教材・教具の整備、管理が行き届き、教育活動に効果的に活用されている。	B	A	効果的有効な活用することはできているが、使用後の管理については今後も気をつけていく。	教育委員会より導入していただいたPCの有効活用はかなり進めることができた。保管管理も含め、今後も職員の共通認識、有効活用を図っていききたい。
	保護者負担の副教材や学習帳などの精選を行うとともに、日々の学習に有効に活用している。	A		学年会計予算から適切な教材を選定して、有効に活用することができた。	
	教室や廊下の掲示物など教育環境は計画的に整備されている。	A		学年や委員会で季節や学習内容に合った掲示物の整備を行うことができた。	
施設・設備	様々な教育活動の場において、施設・設備が有効に活用されている。	A	B	施設設備を有効に教育活動に生かし活用することができた。	施設・設備の安全点検を年3回実施し、必要に応じて随時補修・修繕を心がけているが、校舎全体に経年劣化による老朽化が見られる。市当局にお力添えをいただきながら環境整備に取り組んでいる。
	施設・設備の点検を定期的に行い、安全が確保されている。	B		施設設備の老朽化が進んでおり、十分な安全点検が必要である。	
	校地・校舎の維持管理を教職員が協力して行っている。	B		職員からはかなりの修繕、改修箇所があがってきているが、修繕箇所が多くまた経年劣化により修繕が難しい箇所が多い。優先順位を決め、修繕改修に努める。	

・教員不足の問題、教員の働き方改革について、抜本的な対策なしでは現場の対応は限界があるように感じる。

※評価はA・B・C・Dの4段階